



塩素系カビ取り剤を安全に使用するために！

梅雨のこの時期、気になるお住まいのカビ。特に、カビの条件が整いやすい浴室はカビの温床となりがちです。長期間放置するとパッキンなどにカビ菌が根を伸ばし、落ちにくい頑固なカビとなってしまいます。カビ取りに効果が高い製品として塩素系カビ取り剤がよく使われますが、使い方に気をつけないと思わぬ健康被害に繋がることもあり注意が必要です。



まぜるな危険 塩素系

注意すべき点の第一は「まぜるな危険」です。塩素系のカビ取り剤には必ず「まぜるな危険・塩素系」の表示があります。これは塩素系製品と酸性製品の混合で、有毒な塩素ガスが発生し、死亡事故につながったことがきっかけで、家庭用品品質表示法で表示が義務付けられたものです。

「まぜるな危険」は、いまではかなり浸透してきています。しかしながら、日本中毒情報センターの吸入による健康被害報告^{*1}や東京消防庁の救急搬送データ^{*2}をみると、いまだに塩素ガスの発生が疑われる事例が報告されています。塩素系カビ取り剤と絶対に混ぜてはいけない酸性洗浄剤にも必ず「まぜるな危険・酸性タイプ」の表示がありますので気をつけるようにしましょう。また、「まぜるな危険」の表示はありませんが、食酢や除菌スプレーなどに使われているアルコールやなどは塩素系カビ取り剤と混ぜると有毒なガスが発生することが知られています。思わぬ事故を起こさない為にも、塩素系カビ取り剤は必ず単独で使うとよいでしょう。



注意すべき点の第二は、浴室の換気に気を配り、長時間使用したり、一度に大量に使用したりしないことです。「まぜるな危険」を守っていても、スプレーした微細な霧を吸い込んだり、塩素系カビ取り剤特有のニオイ（いわゆる塩素臭）で気分が悪くなってしまうことがあります。また、今まで大丈夫であった方でも、その時の体調により気分が悪くなることもあります。換気に気を配ることが大事ですが、マスクをするなどして、微細な霧を吸い込まないようにすることも大切です。



注意すべき点の第三は、液が目に入ったり、皮膚につかないように注意することです。塩素系カビ取り剤には次亜塩素酸ナトリウムという漂白剤に使われている成分が使われており、液性は強いアルカリ性です。強いアルカリ性の液は目に入ると失明のおそれがあり、皮膚につくと皮膚を腐食し、肌荒れを起こすことがあります。使用する際には、メガネと炊事用手袋を着用するようにしましょう。目に入らないようにするには、目より上にはスプレーしないという使い方も大切です。もし目に入ったときは、こすらずただちに流水で15分以上洗い流し、痛みや異常がなくても直後に眼科医に受診するようにしてください。受診時には製品を持参するとよいでしょう。



注意すべき点の第四は、子どもの手に触れないように注意することです。大人は注意していても、小さな子どもにはその認識はありません。子どもを事故に巻き込まぬよう、置き場所には注意しましょう。

塩素系カビ取り剤は浴室を衛生的でキレイに保つのに有用な製品です。“自分は大丈夫”と過信せずに正しい使い方を習慣化すれば事故を未然に防げます。使い慣れた製品かも知れませんが、再度、正しく安全な使い方を確認して、浴室も気持ちもスッキリと夏を迎えたいものですね。

[塩素系カビ取り剤の安全につかうために]

- ① 「まぜるな危険」を守る。
かならず単独で使用し、他のものと混ぜない（酸性タイプの製品や食酢・アルコール等）。
- ② 換気に気を配り、長時間使用や一度に大量に使用しない。
換気扇を回す、窓を開ける、窓がない場合は浴室に通じる部屋の窓を開けるなど。
- ③ 目に入ったり、皮膚につかないよう注意する（マスク、眼鏡、手袋をする）。
- ④ 子どもの手にふれないようにする。

※製品の裏表示やメーカーのHPには、正しい使い方や使用上の注意が記載されています。一度、確認されるとよいでしょう。

*1 <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11123000-Iyakushokuhinkyoku-Shinsakanrika/0000147068.pdf>

*2 http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/topics/201610/nichijoujiko/data/00_2.pdf#page=2